

令和4年度入学生用 カリキュラム・マップ

教授会等承認日(報告日):令和3年8月24日

学 位	博士(教育学)											ディプロマ・ポリシー(DP)		
												共同教科開発学専攻		
		付属情報	中区分	小区分	詳細	必修選択	科目コード	授業科目	単位	開講種別	授業目標	DP1	DP2	DP3
共通教科開発学専攻	専攻基礎科目			愛知教育大学静岡大	必修	37010010	教科開発学原論	2	講義	本講義は、教育環境学と教科学を統合した学としての教科開発学を構築しようとする背景と目的を明確にする。教科開発学における「教科」とは、既存の教科体系に固執せず、新たな教科体系の開発・創造という意味合いも含んでいる。教育環境学は、学校環境だけでなく、地域・社会・文化を含んだ幅広い視点からの教育環境の研究の発展を目指す。教科学は、教科専門と教科教育の融合による教科内容構成の研究の発展を目指すものであり、教育論、教育内容論、教材論という三つの基本軸からなる。新たな学としての新しい学問として教科開発学を確立していくために従来の教科教育研究を中心とした研究と教科開発学との差異、教科開発学の定義・特色等、教科学と教育環境学の構造的関連をどうとらえていくかを明らかにしていく。この基本理念を踏まえるために、4名の教員の専門分野を基に教科分野ごとの視点からこれまでの自分の研究成果を伝えることから、その基本問題に関する考察を基礎として教科開発学を通して教科開発学の学問分野の知識を得ると共に、領域横断的な学術的知見や理論を修得していく見地とする。	◎	◎	◎	
		愛知教育大学静岡大	必修	37010030	教科開発学実践論	1	講義	教科開発学実践論では、教育実事を共有し、実践を理論化する方法論を学び、学校教育の実践を理論化し、また、その理論を指導する生かす能力を身につける。学生は、教育実務系大学の教員等と活躍することが期待されているために、大学教育段階における教育実践をも視野にわけて、教科開発学における実践上の課題の把握、大学教員としての教育実践力、教育FD等、実践的諸課題を追求する。そのため、各受講者のこれまでの研究を、教科開発学の視点から構成しなおし、それについて発表をし、受講者および教員全員で議論する事で、上記の題に答える。	◎	◎	◎			
共通教科開発学専攻	専攻基礎科目			愛知教育大学	選択	37010050	文化資源活用論	1	講義	文化資源を、それぞれ異なる視点から取り上げることにより、複眼的な視点を養うと同時に、文化の根源に迫ろうとしている点に特徴がある。 1)物語論による分析方法を用いて、小学校国語教科書教材を分析します。教材分析を通して、国語の授業について考察します。 2)戦後の地理教育制度や教科書を取り上げ、今日の地理教育の課題について講義します。また、各教科の中小高一貫カリキュラムについても検討します。	◎	◎	◎	
		愛知教育大学	選択	37010070	科学技術活用論	1	講義	1)自然科学と科学技術との関連について、STEMやSDGsなどの教育課題を連携させながら、科学教育が科学技術に果たす役割や、科学教育が育成すべき資力・能力がどのように科学技術に貢献しているかについて概観する。 2)現代物理学の発展の量子力学とあり、半導体物理学についていたアプローチは量子力学の発展の上に築かれたものである。本講義では、量子力学の発展の量子力学とあり、半導体物理学についていたアプローチは量子力学の発展の上に築かれたものである。算数・数学ではどのような考え方をするのかを、学校教育では扱われることが少ないが、子どもたちが興味をもてる教材を通して理解する。	◎	◎	◎			
共通教科開発学専攻	専攻基礎科目			愛知教育大学	選択	37010090	教育評価実証方法論	1	講義	授業では、はじめに受講者の研究テーマについて、パワーポイントを用いて発表してもらう。その後、各教員の授業を受講する。各教員の授業内容は、以下の通りである。 1)心理学における基本的な研究法(データの収集法、相関的研究と実験的研究法、尺度の信頼性と妥当性、因子分析等)について概観する。また、受検や評価について概観し、検討する。 2)幼児教育学、保育学、子ども学と分野における実践的研究者や実践者の立場から、対象(乳幼児、保育者)を理解し分析評価する方法、それを研究として昇華させるための研究方法を学ぶ。受講者の研究背景や状況に応じて、学際的な視座から、文書分析・調査研究の方法などの中から自分たちの具体的な課題を抽出し、先行研究、文献調査、事例を通して学ぶ。同時に、既存の諸科学で自らの理とさせてきた思考の枠組みや方法、レトリックを批判的に検討してある。 3)健康科学の立場から学校での実践論文をもとに、研究方法(分析方法等)と研究結果(まとめ方)について取り上げる。	◎	◎	◎	
		静岡大	選択	37010110	教育プログラム開発論	1	講義	教育プログラム開発論は、学校での授業の計画・実施あるいは分析・評価と同時に、高等教育機関において教育に従事するための、授業開発に関する知識を学ぶものである。前半は、教育実践研究に必要な、研究のアイデアを授業化する方法、データを収集し分析する方法、授業の計画・実施の計画・実施の方法、授業の計画・						

大区分	中区分	小区分	詳細	必修選択	科目コード	授業科目	単位	開講種別	授業目標	DP1	DP2	DP3
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	自然科学科学分野科目	静岡大学	選択	37040070	数学教育論研究	2	講義	算数・数学科の指導内容について、主に次の3点を中心に分析・考察する。 (1)小・中・高の算数・数学科のカリキュラムについて、系統性を視野に入れて検討を加えた上で、特に小中、および中高の「接続」という観点から、カリキュラムについて分析する。このとき、過去の学習指導要領、過去の教科書等も調査に加えて追究する。 (2)数学的な思考力・表現力の本質について検討を加えた上で、それらの育成に焦点を当てた教材・指導法について、先行研究を踏まえて考察する。また、数学的な思考力・表現力の育成を目指した実践例を検討するとともに、いくつかの授業観察を行い、授業での生徒の表れを分析する。 (3)数学を学ぶ意欲の本質について検討を加えた上で、それを実感させる教材・指導法について、先行研究を踏まえて考察する。また、数学を学ぶ意欲を実感させることを目指した実践例を検討するとともに、いくつかの授業観察を行い、授業での生徒の表れを分析する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	自然科学科学分野科目	静岡大学	選択	37040090	生物教育内容論研究	2	講義	小学校～高校の理科・生物におけるフィールドワーク(野外での観察・観測)による学習では、指導計画をたてる上で学校周辺の環境の違いに適切に対応することが必要であり、フィールドワークの熟練者でなくてもそのような対応が可能となるようなマニュアルが地域間に作成されることが望ましい。近頃その重要性が高まっている生態系や生物多様性に関する学習では、体験的な内容をとりいれた効果的な学習プログラムの開発が望まれる。本講義では、理科・生物におけるフィールドワーク企画・実践能力の高度化と生態系・生物多様性に関するコンテンツ開発技能の習得を目標とする。授業内容としては、小中高の理科において体系的な観察対象となる生態系において、観察内容と観察手法を実習形式で学び、それに基づいてフィールドワークの企画とマニュアル作成を行う。さらに、生態系・生物多様性に関して最新の概念に基づいたコンテンツを開発し、フィールドワークと室内での授業を効果的に組み合わせたカリキュラム案を設計する。これらによって、地域の環境に対応したフィールドワークを組み込んだ生態系・生物多様性に関する効果的な学習の企画・開発を行う能力をもった人材を育成する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	自然科学科学分野科目	静岡大学	選択	37040110	理科教育論研究	2	講義	本講義では、教科開発学の中核を形成する理科カリキュラム開発に関して、理科の目的・論・目標・論、理科の学習内容・構造、子どもの自然理解の実態、理科教授論、そして科学と社会との関連を取り上げ、包括的な理解を図るとともに、理科における教科開発力の育成を目標とする。 具体的には、戦前の「理科」誕生以降の理科教育論の展開について、当時の西欧諸国における科学教育論と関連づけて講義を行い、理科の基礎を置く自然科学研究の本質を考察する。そして、子どもの有する科学に関する素朴概念の特徴と近年の理科教授論の動向を踏まえた上で、教科開発学の具体的手法について学ぶ。 さらに、21世紀の社会が直面する地球環境問題やエネルギー問題への理科の対応について論じ、これらの教科開発学の重要な観点となる持続可能な社会構築のための理科的姿勢を検討する。 授業の後半では、前半で学んだ事項をベースに、カリキュラム分析や教科開発の実習を中心に実施する。現代理科カリキュラム(STSカリキュラム、コンテクストに基礎を置いた理科学習等々)の分析や開発を行うことによって、上記視点の具体的な展開を把握・実践できるようにする。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻分野科目	創造系科学科学分野科目	愛知教育大学	選択	37050230	保健科教育論研究	2	講義	保健科教育論研究では、ディプロマ・ポリシー(DP)の特にDP2(学術的な専門的知見を教科内容として構成できる能力を身に付け、教科の基礎を置く自然科学研究の本質を考察する。そして、子どもの有する科学に関する素朴概念の特徴と近年の理科教授論の動向を踏まえた上で、教科開発学の具体的手法について学ぶ。 さらに、21世紀の社会が直面する地球環境問題やエネルギー問題への理科の対応について論じ、これらの教科開発学の重要な観点となる持続可能な社会構築のための理科的姿勢を検討する。 授業の後半では、前半で学んだ事項をベースに、カリキュラム分析や教科開発の実習を中心に実施する。現代理科カリキュラム(STSカリキュラム、コンテクストに基礎を置いた理科学習等々)の分析や開発を行うことによって、上記視点の具体的な展開を把握・実践できるようにする。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻分野科目	創造系科学科学分野科目	愛知教育大学	選択	37050210	保健体育内容論研究	2	講義	本授業では、保健体育授業のみならず、スポーツ・健康科学領域で課題となっている事項について提議し、討議していく。特に、子どもたちの教育やその動きの現状、それを改善する意を教科開発学の観点から検証し、学習指導・指導法に関する素朴概念の特徴と近年の理科教授論の動向を踏まえた上で、教科開発学の具体的手法について学ぶ。 さらに、21世紀の社会が直面する地球環境問題やエネルギー問題への理科の対応について論じ、これらの教科開発学の重要な観点となる持続可能な社会構築のための理科的姿勢を検討する。 授業の後半では、前半で学んだ事項をベースに、カリキュラム分析や教科開発の実習を中心に実施する。現代理科カリキュラム(STSカリキュラム、コンテクストに基礎を置いた理科学習等々)の分析や開発を行うことによって、上記視点の具体的な展開を把握・実践できるようにする。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻分野科目	創造系科学科学分野科目	愛知教育大学	選択	37050035	体育教材開発論研究	2	講義	教科開発において、特に体育に関しては子どもの身体活動を切り離して考えることは不可欠である。一方で、子どもは発育・発育期にあることから、その身体や生理的機能は日々変化している。したがって、体育における教科開発の研究を行うにあたり、子どもとその変化を理解しておくことは重要である。本授業では、主に子どもの発育・発達における身体的、生理的変化を研究データを主に理解することを目標としている。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系科学科学分野科目	静岡大学	選択	37050070	美術教材論研究	2	講義	美術・デザイン活動及びその教育について、その歴史的変遷を概観しながら、今日の開設状況や新たな展開について概説する。特に、美術・デザインの持つ特性とその教育の価値について、コミュニケーションやそのデザインといった情報概念を軸に考察し、それを応用した教材開発について探求する。 授業の目標は以下の3点を主とする。 (1)美術・デザインの歴史を概観し、その教育的役割について理解する。 (2)美術・デザイン教育の歴史的変遷と今日の開設状況を理解する。 (3)美術・デザイン教育における教材開発について演習する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系科学科学分野科目	静岡大学	選択	37050090	体育教育論研究	2	講義	本体育教育論研究では、体育科における教師教育・教員養成論を巡る問題点とその解決方法について、授業研究をその中核の一つとして明らかにしていく。その基礎として、理論と実践の関係を歴史的視点および科学的視点から検討し、理論と実践それぞれの特徴と役割について理解を深める。その上で、これまでの専門的養成論に対する批判的検討とその理論の限界について理解し、実践力を高めるための授業研究の新たなあり方について、質的研究方法の一つである「アクション・リサーチ」をもとに講義を行う。これらの理解に立ち、まず体育教師が授業実践を観察するための視点形成の方法について学習する。具体的には、ビデオ撮影された体育科の授業実践を「学習資源」として、それぞれの授業場面において「教師は、何を観察し、何を考え、どのような発言(行動)を行なったのか」について討議を行う。 これらの講義から、体育科における授業研究の今後のあり方(その視点と方法)について理解を深めるとともに、「実践」の持つ意味と「授業実践」の構造から、体育科における新たな教師教育・教員養成のシステムについて学ぶとともに、授業時間における授業改善のための効果的な意見交換の方法と授業者と研究者間における授業データ蓄積方法とその効果的な活用の方法について探求できるようにすることを目標とする。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系科学科学分野科目	静岡大学	選択	37050110	技術教育内容論研究	2	講義	この授業の目的は、現在、学校現場で行われている技術教育の内容を、科学技術発展の歴史に学び、その教育的効果という観点で検討し、新たな視点で技術教育教材を作り上げる能力を身につけることである。演習科目であるので、受講者が授業案を、他の受講生や教員とともに議論し、授業実践を行い、より良い実践作りへとつなげていくことを目指している。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系科学科学分野科目	静岡大学	選択	37050170	体育・課外活動教材論研究	2	講義	講義の目的は、「スポーツ科学系の基礎的研究を保健体育、体育系課外活動の教科開発にどのように活かすか」研究を進めていく」ということを探求することです。その目的のため、先行研究の理論的背景を理解し、現状を把握しながら問題点を明らかにしていく。また、包括的な研究課題の設定を目指したいと思います。授業では個人やグループ単位でのフィールドワーク、プレゼンテーションなどの機会を多く持つ予定です。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系科学科学分野科目	静岡大学	選択	37050190	家庭科教材論研究	2	講義	家庭科教材論研究では、食分野を中心にしながら、家庭科の教材研究のあり方を検討する。文献調査や実習・実験を通して、教材研究力・教科開発力を育成し、家庭科の授業での活用方法を学ぶ。また、身の回りの生活の中から、家庭科と関連の深い科学や文化に着目し、現代的課題につなげていく力を養い、家庭科を学ぶ意義や目的を伝える工夫についても検討する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	創造系科学科学分野科目	静岡大学	選択	37050150	技術教育教材論研究	2	講義	技術教育における教材は、学習者自らが製作(制作)するものが大半であるが、その製作の対象となる教材そのものは、教育目的を満たすために、どのように設計されるべきかを検討し、技術教育における教材設計について考察する。		◎	
共同教科開発学専攻	専攻応用科目		愛知教育大学静岡大学	必修	37110010	教科開発学セミナーⅠ	2	演習	教科開発学セミナーⅠは、大学院生が教科開発学とは何かを問いながら、それまでに研究してきた成果を、他の院生ならびに全教員の前で口頭発表する場である。他分野の教員も加わり、異なる専門性の観点から研究成果について論評する授業形態は、本専攻の特色の1つである。このセミナーでの研究発表の積み重ねが、博士論文へとつながる。また、発表の場から期待される。さらに、教科開発学という学問領域とは何かについて、全員で議論することにより、教員と院生の共通理解を深めて行く。	◎		◎
共同教科開発学専攻	専攻応用科目		愛知教育大学静岡大学	必修	37110030	教科開発学セミナーⅡ	2	演習	教科開発学セミナーⅡは、1年次に履修し、研究発表したセミナーⅠでの内容を基礎に、それ以降の1年間の研究成果を発表する。具体的には、博士論文の目次構成と、それぞれの章立ての概要等について、他分野の教員も加わり、異なる専門性の観点から検討をおこなう。セミナーⅡは、博士論文の中間発表として位置づけられる。	◎	◎	◎
共同教科開発学専攻	専攻応用科目		愛知教育大学静岡大学	選択	37110050	教科開発学セミナーⅢ	3	演習	教科開発学セミナーⅢは、セミナーⅡとは異なり、原則として8月に開講される。この時期に研究成果を発表することで、自らの研究をまとめ、速やかに博士論文作成へと繋がることを期待される。具体的には、本セミナーⅢにおいては、博士論文の目次構成を確定し、博士論文の草稿を基に、その内容を発表する。	◎	◎	◎

【修正履歴】
教授会等承認日(報告日):令和8年9月10日